

1 石見神楽とは

島根県の西部「石見地方」で行われる神楽を「石見神楽」といいます。にぎやかな笛や太鼓の囃子にのって神々の物語を再現し、豪華絢爛な衣裳をまとい勇壮で活発なテンポの神楽は、全国各地でもほかにはありません。

もともと、石見神楽は一年の豊作や住む人々の健康を祈り、神に歌や舞を奉納するもので、毎年10月の秋祭りの中で執り行われます。現在では、地域のイベントや観光を目的として1年中舞われている人々の生活に密着した郷土芸能です。

石見神楽が全国の神楽の中でここまで大きく変化してきたのは幕末の頃からです。神職により伝承されていた神楽が庶民の手に移ることにより、神楽の目的である神事が後退し、娯楽性が現れてきました。

特に、昭和45年に開催された大阪万博を契機に大きくショーアップされることとなりました。

2 演目説明

(1) 塵輪

この演目は石見神楽の鬼舞の中でも代表的な演目です。

「塵輪(じんりん)」とは、演目中に出てくる鬼の名前のことです。第14代仲哀天皇の頃、翼により自由に飛行し村々を襲っては人々を殺す悪鬼「塵輪」がいました。そこで天皇が介添えの高麻呂とともに弓矢で塵輪を退治するという神楽です。

この「塵輪」は鬼舞の中でも代表的な演目で、鬼が飛び交うように舞い、2神2鬼の立ち合いの激しさが見どころの一つとなっています。

また、この鬼が着ている衣裳は、金糸銀糸の総縫いつぶしの豪華絢爛なもので、同じものが1枚もないと言われています。重量は30キロ以上もあるにもかかわらずスピード感あふれる勇壮な神楽をお楽しみください。

(2) 恵比須

島根県の松江市にある美保神社の御祭神である恵比須様が、磯辺で釣りをしている姿を神楽化したものです。恵比須様が撒き餌としてお餅や菓子を客席に投げ込む演出など特に子どもに人気のある演目で、商売繁盛、漁業繁栄、五穀豊穡の吉事の神としてめでたいときには必ず舞われる神楽です。

(3) 大蛇

大蛇の演目は石見神楽の代名詞ともなっているほどスケールの大きな演目です。

悪行のため高天原を追われた須佐之男命^{すさののおのみこと}が出雲の国、斐伊川にさしかかると老夫婦が嘆き悲しんでいました。訳を尋ねると夫婦には8人の娘がいましたが、毎年一人ずつ娘をとられ最後の一人も取られる運命にあると言います。

須佐之男命は、娘を救うため大蛇退治を約束し、毒酒を作らせ大蛇が酔ったところを剣を手に壮絶に戦う場面を舞うという演目です。

特に、大蛇を演じる舞子は観客に身体を見せないように舞い、重い蛇頭をかむり、18mもある蛇胴を巧み操り、演技の度にはらばったり、立ったり、膝で歩いたりと終始動き回ることが要求され、須佐之男命との見応えある戦いがクライマックスとなります。

3 島根県について

西日本の日本海側に位置しており、沿海地方とは1991年に「友好交流に関する覚書」を締結。国宝の松江城や出雲大社、世界遺産の石見銀山、隠岐ユネスコ世界ジオパークなど世界にアピールできる観光資源も数多い。